

2023年度石狩市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水稻・小麦を中心とする土地利用型作物と大都市近郊の優位性を活かした高収益な労働集約型作物の作付振興を図り、農家戸々の作物形態のバランスを保つことで、地域農業を維持して参りました。しかし、農家の高齢化と雇用労働力の不足により高収益作物野菜から土地利用型作物（小麦、牧草）へ転換しつつあり、都市近郊で鮮度の良い多種に渡る野菜産地としての優位性や小麦と野菜の輪作による品質維持といった生産基盤が崩れてきており、新たな輪作体系の確立が急務である。又、組合員の高齢化や担い手不足により生産農家戸数は年々減少していることから、地域の限られた若手農業者への継承で経営規模が拡大することで1戸あたりの作業負担が増し、地域としての集積の限界が来ることが予想される。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水田活用交付対象農地の見直しがかかったことにより、当地域における水張り面積については、主食用米の「生産の目安」を遵守しながらもブロックローテーションの構築の一環として、加工用米、飼料用米、新市場開拓用米の取組を行って参ります。農地の耕作維持のため若手担い手による土地利用型作物で収益性の高い小麦の作付拡大と都市近郊地域の優位性と転作による品質低下を避けるため輪作体系の確立による高収益作物の作付維持を進める必要があり、地域の課題である雇用労働力の確保や労働力を補うための省力化技術の導入などを推進し、取組の支援を行って参ります。又、近年の気象環境の変化に対応した強い生産基盤により安定した農家所得を確保するため、品質・単収の低下を招いている圃場の排水不良等の改善、連作障害回避、継続的な土壌診断による土壌改良が後押しする省力化技術の導入等のサポート体制の強化と合わせた雇用労働力の確保に重点を置き、取組の誘導により生産維持と収益性の高い農業への転換を図って参ります。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

【検討に当たっての主な観点】

- 耕作者の高齢化及び労働力の減少に伴い、経営規模による担い手への負担が多くなることや、高収益作物の栽培技術向上と輪作体系の構築による作付維持からも継続的な水田の有効活用利用をしていきたい。
 - 土地利用型の収益性のある小麦の作付を拡大及び輪作に必要な高収益作物の作付維持に必要な省力化技術の導入、栽培技術の向上に努める。
 - 圃場整備により十分な収益性が見込まれ、再生協議会が認める団地面積をクリアしている場所において、希望に応じて畑地化支援を活用する。
 - 転換作物が固定化している水田では、病気や収量低下等の連作障害が発生するため、当該地域では、水張り面積を守りつつ、小麦、大豆、高収益作物等を一定期間ごとに回転させるブロックローテーションを検討しなければならない。
- また、畑地化支援について、貸借された水田においては、耕作者だけでなく土地所有者の意向を踏まえて検討する必要があることから時間を有する可能性もある。そのため、対象水田耕作者においては重点支援期間中（令和3年～令和5年度）の畑地化支援制度に関する助成メニュー活用についての情報提供を行いながら取組を進める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

安定販売・価格確保に繋がる有利販売に向けて、全道共計を主体に需要・米価動向を踏まえた多様な販路・販売手法を構築させることで、生産者手取り単価の向上を目指し、安定した販売数量の確保に努めます。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

新型コロナウイルス感染症の影響により外食産業の需要低下による米の消費減少が見込まれる中、米政策改革の着実な推進により需要に応じた生産を推進するとともに、食料自給率・食料自給力の維持向上を図るため、省力化技術の導入やコスト削減の取組とあわせて、生産性と収益性の確保に努めます。

イ 新市場開拓用米

主食用米の単価が下落傾向にあることを踏まえ、「生産の目安」を維持しつつ、新たな需要を確保するという観点から、水田リノベーション事業を活用しながら作付推進を図る。

ウ 加工用米

新型コロナウイルス感染症の影響により米の消費減少が見込まれる中、需要に応じた生産を推進するとともに地域の水張面積と水田生産力の維持を図るため、水田リノベーション事業を活用しながら加工用米への作付推進を図る。

(4) 小麦、大豆、そば、小豆

生産性の高い省力化作物として小麦への作付転換をはじめ需要等に応じた生産量の確保を進め、排水や除草対策や、省力化技術を利用した生産技術等普及推進し、農家経営の安定化を図る。

(5) 飼料作物

家畜農家との連携の他、更なる団地化を推進することで省力化技術による効率化を図るとともに、土壌改善や除草、種子更新等の取組を進め、生産性の向上を図る。

(6) 高収益作物（野菜、その他野菜、花き、果樹、園芸作物等）

多種多様な作物の栽培において、安定生産の維持拡大を図るため土壌診断による土壌改良等や排水整備等により生産性・収益性の向上を図る。

また、大都市近郊の優位性を活かし、需要に対応する多種多様な作物の栽培を進めるためにも、労働力を確保するための取組と生産性の向上に向けた省力化機械の導入を推進支援する。

また、雇用労働力の確保が年々難しくなっており、人手を必要とする高収益作物の作付を維持していくためには当農協の「グリーンサポーター」以外にも農家個々が求人募集等をしなければ集まらないためその取組に対して支援する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	480.8		484.62		480.81	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	59.64		90.71		59.64	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	1.25		1.25		1.25	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	27.88		16.2		28.29	
麦	507.16		537.34		600	
大豆	29.8		44.65		35	
飼料作物	408.71		355.27		356.9	
・子実用とうもろこし	0		3.84		8	
そば	7.09		8.45		8.3	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	155.55		143.87		169.58	
・野菜	146.89		136.12		140	
・花き・花木	3.87		3.87		3.87	
・果樹	3.89		3.89		3.89	
・その他の高収益作物	0.9		1		1	
その他	2.00		1		1.92	
・小豆	2.00		0		1.92	
畑地化	0.00		880.00		880.00	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
				(2022年度)	(2023年度)
1	人参・ブロッコリー・長芋・スイートコーン・さやえんどう・大根・馬鈴薯・アスパラ・ミニトマト・スナップエンドウ・南瓜・牛蒡・玉ねぎ・キャベツ・レタス・加工人参・加工馬鈴薯・薬草・果樹・果菜類・根菜類・葉茎菜類・果実的野菜・洋菜類	高収益作物（単収型）	野菜の作付面積 単収 新技術の取組	(2022年度) 128.57ha 人参 3.09ha 3,046kg ブロッコリー 49.13ha 1,448kg 長芋 1.40ha 1,551kg スイートコーン 4.42ha 618kg さやえんどう 1.58kg 731kg 大根 10.64ha 3,636kg 馬鈴薯 24.77ha 2,768kg アスパラ 1.42ha 358kg ミニトマト 0.86ha 6,338kg スナップエンドウ 0.47ha 1,231kg 南瓜 16.51ha 1,720kg 牛蒡 0.28ha 3,108kg 玉ねぎ 1.49ha 3,325kg キャベツ 1.12ha 6,625kg レタス 0.66ha 1,718kg 加工人参 2.71ha 4,318kg 加工馬鈴薯 5.55ha 4,269kg 薬草 0.90ha 266kg 果菜類 —kg 根菜類 —kg 葉茎菜類 —kg 果実的野菜 —kg 洋菜類 —kg 新技術の取組 2.95ha	(2023年度) 147.53ha 人参 3.20ha 3,100kg ブロッコリー 52.00ha 1,200kg 長芋 1.80ha 3,750kg スイートコーン 5.45ha 1,350kg さやえんどう 2.00kg 1,100kg 大根 11.00ha 4,100kg 馬鈴薯 31.00ha 3,000kg アスパラ 1.42ha 500kg ミニトマト 0.86ha 6,600kg スナップエンドウ 0.50ha 1,050kg 南瓜 17.00ha 2,100kg 牛蒡 0.30ha 2,050kg 玉ねぎ 2.50ha 5,600kg キャベツ 1.30ha 6,200kg レタス 1.00ha 2,100kg 加工人参 3.50ha 5,000kg 加工馬鈴薯 8.00ha 4,500kg 薬草 1.00ha 1,670kg 果菜類 0.50ha —kg 根菜類 1.00ha —kg 葉茎菜類 0.70ha —kg 果実的野菜 1.00ha —kg
2	花（別紙）	花卉類の取組支援	作付面積 販売額	(2022年度) 3.87ha 1,493,100円／10a	(2023年度) 4.00ha 1,620,000円／10a
3	飼料作物（飼料用米・WC S用稲を除く）	飼料作物の更なる効率性・収益性の取組	作付面積 単収	(2022年度) 239.75ha 1,800kg	(2023年度) 347.86ha 2,450kg
4	小麦	飼料作物から小麦への転換支援	作付面積 転換面積	(2022年度) 376.65ha 37.41ha	(2023年度) 374.08ha 30.00ha
5	人参・ブロッコリー・長芋・スイートコーン・さやえんどう・大根・馬鈴薯・アスパラ・ミニトマト・スナップエンドウ・南瓜・牛蒡・玉ねぎ・キャベツ・レタス・加工人参・加工馬鈴薯・薬草・果樹・果菜類・根菜類・葉茎菜類・果実的野菜・洋菜類	野菜、果樹、花の労働力確保対策	取組面積	(2022年度) 野菜 93.97ha 花 2.99ha 果樹 0ha 薬草 0ha	(2023年度) 野菜 95.00ha 花 4.00ha 果樹 3.89ha 薬草 1.00ha

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
6	小麦、大豆（黒大豆含む）、そば	畑作物の低コスト生産等の取組	作付面積 目標単収	(2022年度) 小麦 537.90ha 330kg 大豆 27.48ha 107kg そば 4.34ha 122kg	(2023年度) 春小麦 150.0ha 160kg 秋小麦 390.0ha 370kg 大豆 33.00ha 280kg そば 8.30ha 120kg
7	そば・新市場開拓用米	そば・新市場開拓用米 作付助成	作付面積	(2022年度) 4.34ha 1.25ha	(2023年度) 8.30ha 1.25ha
8	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組助 成	作付面積	(2022年度) 1.25ha	(2023年度) 1.25ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:北海道

協議会名:石狩市農業再生協議会

新様式(公表用)

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	高収益作物支援(単収型)	1	35,000	野菜(別紙の通り)、果樹、薬草	土壌診断による土壌分析、緩効性肥料、有機肥料、堆肥の施用等
2	花卉類の取組支援	1	35,000	花(別紙)	ほ場の排水整備(サブソイラー、暗渠等)等
3	飼料作物の更なる効率性・収益性の取組支援	1	13,000	飼料作物(飼料用米・WCS用稲を除く)	団地化要件のクリア、耕畜連携の実施等
4	飼料作物から小麦への転換支援	1	20,000	小麦	飼料作物から小麦への転換等
5	野菜(直売野菜含む)、果樹、花の労働力確保対策	1	20,000	野菜(別紙による品目)、果樹、花卉、薬草	労働力派遣の利用、作業受託等
6	畑作物の低コスト生産等の取組	1	3,258	小麦、大豆(黒大豆を含む)、そば	作業受託、省力化技術の導入等
7	そば・新市場開拓用米作付助成	1	20,000	そば・新市場開拓用米	出荷契約等に基づき、販売目的で対象作物を作付
8	新市場開拓用米取組拡大助成	1	10,000	新市場開拓用米	需要に応じた米の生産・販売に推進に関する要領に定める新規需要米取組計画の認定を受けること

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。